

春もすぐそこ。「氷が解けたら何になりますか？」の質問に、「先生、それは水です」と言わずに、「春になります」と答えたお子さんがいたそうです。その答え、いいですね。

今年もまたありがたいことに、涅槃托鉢を勤めることができます。鈴を鳴らし、『般若心経』を読み、「生きとし生けるものが幸せでありますように」と念じながら弟子と共に一軒一軒、托鉢修行。私共もあなた様も共々に修行です。浄財のご喜捨があると、「財法二施 功德无量 檀波羅蜜 具足円満」と唱え、深々と問訊。この托鉢のチラシ、ご一読下さい。

限らない欲のことを仏教では貪欲、一般では「どんよく」と読みますが、仏教では「とんよく」と濁らずに読みます。(貪・瞋・痴「とんじんち」の三毒)

いつも三月、常月夜

わたしや十八、ぬしや二十

死なぬ子三人、みな孝行

使うて減らぬ、金百両

死んでも命の、あるように

貪欲とは、右の如く古人が例を挙げて説明しているように「もつともつと、まだ足りないまだ足りない」と、実現不可能なことを求めていく限りない欲望のことです。貪欲という執着を捨て去る修行が托鉢行です。

「財法二施 功德无量」財法二施とは、財施と法施(教えや智慧の施し)の二つの布施のことです。托鉢の場合は、読経やこのチラシが法施となり、浄財をお上げするのが財施となります。また浄財をお上げする時の一言が法施にもなり、合掌して拜んでくださることもまた、法施となります。自分をも生かし、すべてを生かし切る大きな功德を持っていくというのです。

「一句一偈の法をも布施すべし、此生他生の善種となる。一銭一草の財をも布施すべし、此世他世の善根となる。」
ししょうたししょう 此生他生の善種となる。
たから 財をも布施す
しょうほうげんぞう 正法眼蔵
ぼだいざつたししょうほう 菩提薩埵四攝法

托鉢の財法二施をいただくだけの日々を送っているのかと。慚愧の思いで一杯です。いただいた浄財、三月十五日の涅槃会に施主様の「心願成就」を祈念致します。

良寛様、生家の総領息子の馬之助の放蕩のうわさが高いのを心配して、生家に出かけていった。とうとう三日も宿泊したが、別に何も言わなかった。いよいよ五合庵に帰る日、玄関に腰掛けた良寛様。側にいる馬之助に、「草鞋の紐を結んでくれ」とやっとの思いで伝えると、「はい、良寛様」と、馬之助。紐を結んでいると、首筋のあたりには何か温かいものが落ちてきた。驚いて見上げると、良寛様、目にいっぱい涙をためていらっしやっした。一言も言わずに帰って行かれた。このことがあってから、馬之助の放蕩は一切止まり、家業を手伝ったとのこと。良寛様も総領でありながら名主の仕事は自分には不向きと思いい、出家された。だから馬之助の気持ちに手が取るようにわかり、一言も言えなかった。しかし、馬之助のことを思うと、思わず涙が流れてきた。「慈悲」の「悲」は悲しい、代わってやれない、自分で自覚し、自分で立ち上がるしかない。良寛様はただただ祈るだけ、「馬之助よ、早く気づいておくれ」と。良寛様の慈悲の涙が、馬之助の一生を左右させるほどの法施となりました。

※三月十五日(火) 午前十一時より、ねはん会・お話・おとき どうぞおまいり下さい

涅槃の図 みな泣いていて あたたかし 「久昌寺坐禅会」毎週土曜日 夜七時〜九時 どなたでも